

第11回 那須烏山市庁舎整備検討委員会 会議録（公開用）

開 催 日 時	令和6年6月28日（金）午後1時30分～3時20分
開 催 場 所	南那須図書館 多目的ホール
出 席 委 員	三橋伸夫、大塚孝徳、福田博子、萩原宣子、 山村浩之、角田梨紗、高田悦男、稲葉茂、 豊島香折、佐藤潤一、平野達朗、小川正順
欠 席 委 員	中山衆男、長山真奈実、佐竹信哉
事 務 局	【総合政策課】小原沢参事兼課長、関公共施設再編担当課長兼室長 田嶋主査、奥澤主任 【都市建設課】鈴木課長補佐、齋藤技師係長 大日本ダイヤコンサルタント(株) 3名
傍 聴 者	【一般】5名【報道関係者】7名

1 開会

事務局が開会を宣言した。

委員15名中12名が出席しており、出席委員が会議の定足数である過半数に達していることを報告した。

2 本日の会議の取扱いの確認

事務局) 議事に先立ち、本日の会議の取扱いを確認したい。本日の会議は、全て公開として報道機関にのみ写真撮影及び動画撮影を許可したいと考えている。
このような取扱いとしてよろしいかお諮りしたい。

委員長) ただ今、事務局より提案があったように、本日の会議は、全て公開として報道機関のみ写真撮影、動画撮影を許可することによろしいか。

(異議なし)

異議がないため、本日の会議は全て公開とし、報道機関のみ写真撮影、動画撮影を許可することとする。

3 委員長あいさつ

(委員長)

これまで10回の検討委員会での議論を重ねて、新庁舎の候補地を3箇所まで絞り込んできた。このたび、委員の皆様から、庁舎の候補地について、経済性・実現性の2つの要素について、3次評価に向けた事前アンケートに回答いただいた。2次評価の際の「総合計画との整合」、「利便性」、「将来性」の3つの観点の評価及び3次評価に向けた事前アンケートの結果に加え、市民の声を踏まえながら、総合的な観点から候補地を1箇所選定することにな

る。非常に重要な会議となるため、改めて委員の皆様の慎重なご判断をお願いしたい。

もう1点、新庁舎を整備した後の烏山庁舎、南那須庁舎の跡地の活用や、市民から要望が出ている庁舎以外の公共施設について、新庁舎整備と併せ、市として今後どのように再編整備していくかというグランドデザインについても、委員の皆様の忌憚のないご意見をいただきたい。

4 議事

(1) 新庁舎の候補地の3次評価について

① 事前アンケートの集計結果について

事務局が資料1「2次評価に向けた事前アンケート及び3次評価に向けた事前アンケート集計結果」に基づいて説明した。

委員) アンケート集計結果では、各評価項目において最も優れていると評価した委員の数が多かった候補地が色付けされているが、全ての項目で「③JR烏山駅周辺」が色付けされており、委員の意見が1つにまとまったのだと感じている。「③JR烏山駅周辺」について、事業費が最も抑えられるというのはメリットではあるが、不確定なところも大きい。単に事業費が安いから良いというのではなく、他の2候補地よりも事業費が抑えられる分、JR烏山駅周辺に整備することによって様々なメリットを生み出せるようなことにお金を使うことができ、市民の利便性も上がり、魅力の向上につながるものと考ええる。

委員) 通常、公共施設の建替や移転に当たっては、あらかじめ敷地を用意するのが一般的で、敷地が確保されていないところに移転するというのは、工程を組むこともできないため、厳しいという評価になる。今回、「③JR烏山駅周辺」については、民有地の用地取得の見通しがある程度立ち、実現可能性があるということで、他の2候補地とかなりの差ができたものと感じている。庁舎整備に伴って道路整備が必要か否かによっても、道路用地の民有地取得の要否が変わってくるので、本委員会において、道路整備も含めた検討を行ってきたことは良かったと考えている。

一方で、通常、庁舎に来る際は、徒歩や自転車、車がメインで、電車で来る人はそう多くはないと考える。したがって、新庁舎をJR烏山駅周辺に整備した場合の今後の課題としては、JR烏山駅を核としたまちづくりにおいて、公共交通機関と連携し、一体性を持たせるためにどういう仕掛けを作るかが課題となる。いずれにしても、「③JR烏山駅周辺」が持つ可能性はかなり大きい。JR烏山線を存続させたいという市民の思いが強いほど、より新庁舎の候補地としての優位性が高まると考える。

委員) 誰もが年齢を重ねると、車の運転が難しくなってくる。そういった交通弱者のためにも、やはり公共交通機関を利用して徒歩で行くことができる「③JR烏山駅周辺」が理想的だと考える。

委員長) 県内のいくつかの庁舎整備に関わらせていただいた中で、下野市では、JR自治医大駅から徒歩5分程度の場所に新庁舎を整備した。JRを利用して来庁する人はそう多くはないかもしれないが、自分で車を運転できない高齢者であっても、公共交通機関を使って来庁することができるという選択肢ができたことは大きかったと考えている。本市においても、新庁舎をJR烏山駅の近くに整備することで、市民にとって、電車という庁舎へのアクセス方法ができることは大きな利点であると言える。

委員) 今回のアンケート結果を見て、当然のところに落ち着いたと感じている。新庁舎の候補地の検討当初は、民有地の用地取得の見通しが不明であったが、その後、「③JR烏山駅周辺」については、ある程度の民有地の用地取得の見通しが立った。また、新聞等でJR烏山線の収支状況が報道され、JR烏山線の存続問題がクローズアップされてきた。これらのことから、委員の考えが「③JR烏山駅周辺」に傾いてきたのではないかと考える。これは市民感覚としても同様だと思う。したがって、本委員会の事前アンケートの結果が市民の声でもあると考えている。

委員) 私は、少しでも早く市民が誇れるような庁舎ができることが理想だと考えている。「③JR烏山駅周辺」は、ある程度の民有地の用地取得の見通しが立っており、整備に向けて動き出すことができ、早く庁舎ができるのではないかと考える。JR烏山駅周辺が栄えることで、JR烏山線の存続にもつながることが期待できる。

② 市民の声について

事務局が資料2「市民の声について」に基づいて説明した。

委員) 私は、「NASUKARA市民ミーティング アンケート報告会」と「那須烏山市の地域振興を考える意見交換会」のいずれも参加させていただいた。本市の多くの公共施設が老朽化していて更新もされず、他市町と比べて周回遅れが甚だしい状況となっており、みんながっかりしている。しかし、全ての公共施設を一気に更新することはできないので、どこから整備するかを考える必要がある。生活する上でベースとなるのはインフラだが、インフラ単独でどうにかなるものではなく、インフラを支える市役所の機能が担保されていなければならない。ホール、体育施設、子育て施設など、整備すべきものはたくさんあると思うが、再編の起点となるのは市庁舎であり、待ったなしで整備を進めるべき。庁舎整備に当たって、市民の声として、なるべくお金はかけない方がいい、必要以上に豪華なものにする必要はないといった意見が聞こえてくる。資料1の「③JR烏山駅周辺」の経済性について、「有利な財政支援措置が見込める」とあるが、市の財政負担を極力減らせるような場所に整備すべきと考える。ランドデザインの観点からも、JR烏山線の存続につなが

り、それが烏山高校等の存続にもつながるという相乗効果を考えると、「③JR烏山駅周辺」に新庁舎を整備することが望ましいと考える。

委員) 庁舎以外の現存する公共施設の活用も含めて、公共施設全体をどう再編していくかを考える必要がある。そのために、新庁舎単独で考えるのではなく、新庁舎を起点としたランドデザインは必要不可欠である。地方自治法第4条では、庁舎の位置について「住民の利用に最も便利であるように、交通の事情、他の官公署との関係等について適当な考慮を払わなければならない」と規定しており、大前提である。「住民の利用に最も便利である」というところにフォーカスして、高齢者や車いすの方など、誰もが便利で使いやすい庁舎とすることに加え、付帯する公共施設をどうするかというストーリー性を持って考える必要がある。

委員) 本市にとって最も必要なのは、市庁舎を中心としたまちづくりを考えていくことである。ほしいものはたくさんあるが、司令塔である市庁舎を最初に整備し、市庁舎を中心として周りのまちづくりを考えていかなければならない。JR烏山駅前を活性化することで、駅前を中心とした賑わいのあるまちづくりを考えていく必要がある。子育て施設をJR烏山駅前に整備し、中央公園は敷地が広いので、市民ホールといった施設を整備するのも良いと考える。

③ 候補地選定について

事務局) 事務局において説明してきた内容及びこれまでの検討委員会での意見交換の内容を踏まえ、新庁舎整備にふさわしい候補地について選定いただきたい。

委員) 自分は南那須地区に居住しているが、高齢化により、自分で車を運転できない人も増えてくることが想定されるため、JR烏山線を利用して来ることができる「③JR烏山駅周辺」が望ましいと考える。JR烏山駅を中心としたコンパクトシティの実現の観点からも、「③JR烏山駅周辺」がふさわしいと考える。今後は、JR烏山駅を中心に、JR烏山線をどう活用して利用向上を図るかが課題となる。また、烏山高校に宇都宮方面から生徒を連れてくるためには、JR烏山線を利用するしかない。新庁舎には、高校生が休憩等で利用できるスペースを併せて整備することが望ましい。その際には、有利な財政支援措置の活用を積極的に検討してほしい。その他公共施設の整備については、ランドデザインの検討の中で、優先順位をつけて進めていく必要がある。新しいものも良いが、歴史ある古いものも最大限活用したランドデザインにできると良いと考えている。

委員) 新庁舎の候補地の選定については、アンケート結果のとおり「③JR烏山駅周辺」が望ましいと考える。私も「NASUKARA市民ミーティング アンケート報告会」に参加したが、そこでは、「JR烏山線の存続」がキーワードとして挙がっ

ていた。新庁舎をJR烏山駅周辺に建てて、JR烏山線の利用者数がどれくらい増えるかは未知数で、新庁舎とJR烏山線の存続は直結するものではないと考えている。個人的な考えだが、JR烏山線が廃線になったとしても、線路は残る。自動運転の発達など、これから交通網も変わっていく中で、線路が残っていれば、第3セクターや市直営での存続も考えられるので、JR烏山駅周辺に新庁舎を整備することは大賛成である。スピード感をもってどんどん進めていっていただきたい。

委員) アンケート結果を見れば、誰が見ても明らかである。数字としての定量評価だけでなく、内容面の定性評価についての議論もなされてきた。数字の上でも質的な意味でも、「③JR烏山駅周辺」が望ましい。グランドデザインも踏まえ、引き続き市民の方々に丁寧に説明していくことが大事だと考える。議論を停滞させずに進めていっていただきたい。

委員長) 本日の議論の中で、委員の共通意見として、3候補地の中で、「③JR烏山駅周辺」が最もふさわしいということが改めて確認された。その要因としては、低廉な事業費であることに加え、新庁舎を整備することによる周囲への波及効果が挙げられる。波及効果としては、烏山市街地の活性化による賑わい創出や、JR烏山線の利用者数の増加のきっかけを作るということがある。委員の皆様の賛同の数という量的な評価、望ましいと評価した理由の質的な評価を踏まえ、本日の新庁舎の候補地の3次評価について、検討委員会の結論としては、「JR烏山駅周辺が新庁舎の候補地として最もふさわしい」こととしてよろしいか。

(異議なし)

委員長) 異議がないため、検討委員会の結論として、新庁舎の候補地はJR烏山駅周辺に決定する。委員の皆様には、これまで多くのご意見をいただき、委員長として厚く御礼申し上げる。

(2) まちづくりグランドデザインの検討について

事務局が資料3「まちづくりグランドデザイン策定に向けた公共施設の再編の方向性の検討」及び資料4「公共施設の再編・再配置（たたき台）」に基づいて説明した。

委員) ⑤JR烏山駅周辺の公共施設（案）として、新庁舎の他に、子育て施設・図書館・市民ホール・運動施設等が挙げられているが、優先順位についてはどのように整理していくのか。現在想定している敷地面積約13,400㎡では不足する可能性もあると思うが、土地が足りない場合はどうするのか。また、検討委員会ではグランドデザインを決めることはできないのではないかと。グランドデザインを策定するには、別のステージでの議論が必要だと考える。

事務局) 市内の多くの公共施設が老朽化しており、どこから手をつけていくかが問題となっている。特に生涯学習施設が手つかずの状況となっており、今年度か

ら2か年をかけて生涯学習施設をどのように統廃合していくかといった具体的な計画となる個別施設計画を策定予定である。今ある施設と同じだけの施設を整備することは難しいので、統廃合による集約化・複合化が必要となる。資料4のたたき台において、⑤JR烏山駅周辺に公共施設を集めた理由として、直近の市民との意見交換会においても、JR烏山駅東側の太陽光発電所の有効活用も視野に検討すべきとの意見が寄せられた点を踏まえ反映したものである。事務局としては、JR烏山駅東側の利活用も視野に入れつつ検討を進めていく必要があると考えている。

ランドデザインについては、検討委員会の正式な答申としてまとめることまでは考えていない。新庁舎をJR烏山駅周辺に整備した場合、このようなまちづくりができるのではないかというあくまで参考意見として、答申の付帯意見の位置づけとすることを想定している。市民が夢を見ることができる明るい将来ビジョンとして、ランドデザインをまとめていければと考えている。

委員) 仮に、⑤JR烏山駅周辺に公共施設が集約できれば、③中央公園は案②の活用が可能になる。市街地における防災公園は非常に大切である。非常時に市民の避難場所になり、炊き出し等もできる。大田原市は市街地中心部に大田原中央公園があり、マンホールトイレやかまどベンチ等が設置され、防災公園として整備されている。③中央公園の東側は急傾斜地となっており、土砂災害警戒区域への車道整備はなじまない。樹林帯として遊歩道を整備するなど、防災公園としての活用が望ましい。また、③中央公園の活用方法について、案①、案②と記載されているが、これだと案①の方が第一案として優位であるかのように見えてしまうので、①②といった数字は外し、同列のものとして表記していただきたい。

委員) ⑤JR烏山駅周辺について、「都市計画事業を併用した中心市街地の再生に寄与する土地利用を図る」とあるが、ここで言う都市計画事業とはどのような事業が考えられるのか。

事務局) 現在、都市建設課において策定を進めている駅を核とした半径500メートル圏内のうち、都市計画法に基づく用途地域を対象エリアとした立地適正化計画に基づき都市計画事業を行う場合、国の交付金等、有利な財政支援措置を受けることができる。中央公園は現在用途地域外だが、現在、用途地域に入れる方向で見直しを進めている。烏山地区の①～⑤の候補地については、具体的な計画を作ってみないとわからない部分もあるが、交付金を受けられる可能性がある。

委員) グランドデザインの検討について、本日はどこまで進めて、今後のどのようにまとめていく考えか。

事務局) 本日は何かを決めるということではなく、委員の皆様からご意見をいただき、本日のたたき台に反映の上、次回委員会までにブラッシュアップしたい考えである。

委員) 市民の利便性が高まること、つまり生活の質が高まることが重要である。そのようなストーリー性のあるグランドデザインとしていきたい。市民との意見交換の中で、「家族や友人と仲良く助け合って暮らせることが大切。人と人が出会ってつながることで幸せな生活ができる」との意見があった。そのためには、ハードとソフトが連動することが必要。本市にはソフト面のプレイヤーはいるが、ハード面の整備が不十分で活躍の場がない。そういった市の課題を解決するために優先順位をつけ、まちづくりのストーリーを描き、どの公共施設をどこに整備するのがいいかを検討していきたい。

委員長) 今回、事務局からグランドデザインのたたき台が示されたが、検討委員会としてとりまとめる内容は、庁舎整備基本構想の答申の付帯意見といった位置づけになると考える。どこに何を配置するかを固定化させてしまうと、その後の具体的な検討の際に足かせとなる。参考意見として提出する流れの方が良い。本日の委員の皆様のご意見を踏まえ、事務局において再度検討することになるが、これ以上大きく深掘りすることは時期尚早であり、別の機会でも検討していくことが望ましい。

委員) 庁舎の場所や果たすべき機能等について、全体的なグランドデザイン、ストーリーの中で説明していかなければ、市民のコンセンサスを得にくいと思うので、その点を踏まえて検討を進めていただきたい。

委員) 新庁舎整備に当たって、何らかの公共施設・機能を複合化できれば、経済性も高まる。JR烏山線を有効活用できるような、市民の利便性が向上するような複合化を検討していただきたい。

委員長) 先行事例として、山形県長井市では、駅舎と庁舎が一体化して整備されている。人口が減少し、乗降客数の確保が難しい中、住民のニーズはあるが、予算は潤沢ではないという状況下において、全国的には駅舎と公共施設を隣接させることは珍しくない。本市においても、JR烏山駅の駅舎に庁舎を一体化させるのか、隣接させるのかなど、具体的なことは設計において検討されることになるが、駅舎と市庁舎の組み合わせはポテンシャルがあり、将来的に夢のあるプロジェクトになり得ると言える。

委員) 資料2の意見の中で、新庁舎をJR烏山駅周辺に整備した場合、稼働しない土日の活用を考える必要があるという意見があるが、そのとおりだと思う。子育て施設、図書館、市民ホールといった施設が、大なり小なり付帯施設として必要だと考える。JR宇都宮駅は東口にライトキューブができて、イベントもよく行われていて、賑わっている。岐阜市役所は約3年前に整備され、庁舎に隣接して図書館と交流スペースを整備した。土日など閉庁日でもかなり人が集まっている。図書館を整備すれば、子どもからお年寄りまで幅広い世代の交流の場となるので、優先順位を高く設定しても良いと考える。

市武道館の前の芝生と遊具があるところは、小学校、なすからこども園、図書館から近く、子どもたちにとって、行ってみると誰かしらがいて遊べる場

所になりつつある。JR大金駅前にはナスカラ市場があって、駄菓子売りがあって、そこで友達と会って滞在時間が延びることもある。このようなことから、⑥南那須庁舎は、戦略的に子どものための交流の場にしたいと、子育て世代としては嬉しい。

委員長) 本日の委員の皆様のご意見を踏まえ、事務局において、単にどこにどのような施設というだけでなく、ここではこういった人たちによってこういうことが行われるといったストーリー性に関する部分をたたき台に加えていただくと、説得力が上がるものと思われる。

公共施設の再編再配置に関し、他にご意見があれば、次回までにご一報いただきたい。

(3) その他

※特になし

5 その他

事務局) 昨年6月に庁舎整備検討委員会が再組織され、これまで計11回にわたり、丁寧かつ慎重な議論を重ねてきた。各委員の住んでいる場所や立場の違いから、庁舎整備に関する各委員の考え方も様々であると思料しており、検討委員会としての考えを1つにまとめるのは非常に難しい作業になると考えていた。しかしながら、困難を乗り越え、本日、全会一致で、JR烏山駅周辺が選定されたことは、極めて大きな意義があることであり、事務局としては非常に重く受け止めている。

今後は、候補地の選定結果を踏まえた基本構想をまとめるとともに、本日いただいたご意見を基にまちづくりグランドデザインをブラッシュアップし、次回の検討委員会でお示ししたい。次回の検討委員会は、7月30日（火）午後1時30分から、本日と同会場で開催する。委員におかれてはご出席願いたい。

6 閉会

事務局が閉会を宣言した。